

第1回越谷サンシティ整備懇談会議事録

■日時

令和2年6月19日（金）14:00～16:00

■場所

越谷市役所本庁舎5階第1委員会室

■出席者

- ・松岡拓公雄氏（亜細亜大学都市創造学部教授）
- ・田中秀明氏（明治大学大学院グローバル・ガバナンス研究科教授）
- ・岸井隆幸氏（日本大学理工学部公共政策研究室特任教授）
- ・丁野朗氏（東洋大学大学院国際観光学部客員教授）
- ・黒川文子氏（獨協大学経済学部経営学科教授）
- ・熊谷玄氏（株式会社スタジオゲンクマガイ代表取締役）
- ・松澤義明氏（国土交通省関東地方整備局建政部都市整備課建設専門官）
- ・田中佐紀子氏（埼玉県都市整備部都市計画課主査）
- ・井橋吉一氏（越谷商工会議所会頭）
- ・畔上順平氏（越谷商工会議所青年部会長）
- ・近藤昭彦氏（越谷青年会議所理事長）
- ・桃木利幸氏（越谷市商店会連合会会長）
- ・関森初義氏（越谷市商店会連合会副会長）
- ・中村将義氏（越谷市観光協会事務局長）
- ・石崎一宏氏（越谷市自治会連合会会長）
- ・堀井捷一郎氏（越谷市自治会連合会副会長）
- ・齋藤貴士氏（文教大学外国語学科）
- ・中村讓二氏（越谷市文化連盟会長）
- ・斎藤昭博氏（越谷市PTA連合会理事）
- ・菊池博之氏（一般公募）
- ・松村亜依子氏（一般公募）
- ・森優斗氏（一般公募）
- ・中村直弘氏（一般公募）
- ・小菅里美氏（一般公募）

■資料

《事前送付》

- ・南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出事業構想案に対するパブリックコメント結果概要
- ・南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出事業構想
- ・南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出懇談会報告書

《当日配付》

- ・懇談会次第
- ・懇談会名簿
- ・市出席者名簿
- ・資料1「南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出事業」について

1 開会

司会：

本日は、お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまから、第1回「越谷サンシティ整備懇談会」を開催いたします。

私は本日、司会を務めさせていただきます、市長公室政策課の木村でございます。どうぞ、よろしく願いいたします。

本日の懇談会は、オンラインでも行っております。オンラインでの開催に当たり、不慣れな部分や通信環境によっては円滑な進行に影響が生じてしまうことが予想されますが、あらかじめご了承いただければ幸いに存じます。

さて、開会に当たり、この場をお借りして、ご出席の皆さまへご報告申し上げます。今月1日から昨日18日まで開催されておりました、越谷市議会6月定例会において、コミュニティプラザ、いわゆる越谷サンシティについて現在の所有者である越谷コミュニティプラザ(株)の不動産持分の取得に伴う議案を提出し、11日に議決をいただきました。これにより、市として、越谷コミュニティプラザ(株)との売買契約の方向性が決定したことになりましたので、今月下旬の契約締結を目指し、引き続き、所要の手続きを進めてまいります。本日は、売買契約前ではございますが、不動産の取得を前提に、新たな越谷サンシティの施設機能の具体的な検討を行っていただきます。ご報告は、以上でございます。

2 あいさつ

司会：

それでは、次に、高橋市長からご挨拶申し上げます。

市長：

本日は大変お忙しい中、越谷サンシティ整備懇談会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、日頃より本市の市政運営に多大なるご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本市では、南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出事業を推進するため、昨年度にぎわい創出懇談会からの提言やパブリックコメントのご意見等を踏まえ、にぎわい創出事業構想を策定いたしました。本年度は、にぎわい創出事業構想を基に新たなサンシティの施設機能の具体的な検討を進めてまいります。検討にあたっては、本懇談会やパブリックコメントのご意見、さらには、民間事業者へのマーケットサウンディングを並行して実施することによりまして、より実効性の高い施設機能の検討を行う予定でございます。頂いた様々な視点からのご意見・ご提言を参考とさせていただきながら、新たに整備する越谷サンシティを中心としたこのエリアの新たなにぎわいの拠点となることを目指してまいりますので、委員の皆様には忌憚のないご意見、ご提言を賜りますよう、お願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

司会：

大変申し訳ありませんが、市長は他の公務のためここで退席させていただきます。

それでは、本日は第1回目の会議でございますので、ご出席の皆さまから自己紹介をお願いしたいと存じます。時間に限りがございますので、申し訳ありませんが、ご所属とお名前のみご紹介いただければと存じます。

なお、本日は、本会場だけでなく、オンラインによる出席の委員もいらっしゃいます。最初に本会場の委員からご紹介いただき、次にオンラインの委員からご紹介いただきたいと存じます。それでは、名簿番号1番の松岡様から順番にお願いします。

－出席者自己紹介－

なお、名簿番号24番中島様におかれましては、ご欠席のご連絡をいただいております。

さらに、本懇談会のファシリテーターとして、「越谷サンシティ整備基本計画策定支援業務委託」受注者である青山社中株式会社の筆頭代表CEO朝比奈さんをお願いしております。

朝比奈さんは、本市都市政策アドバイザーや南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出懇談会の副座長として、関係者へのヒアリングや「にぎわい創出懇談会報告書」の作成にご尽力をいただいた経過があり、本懇談会では、ファシリテーターとして運営支援をお願いします。それでは朝比奈様から自己紹介をお願いいたします。

－朝比奈氏自己紹介－

市の出席職員につきましては、時間の都合上、名簿の配付に替えさせていただきますので、後ほどご参照くださいますようお願いいたします。

さらに、本懇談会の運営をはじめ越谷サンシティ整備基本計画策定の支援をいただきます、青山社中株式会社及びEY新日本有限責任監査法人の担当者にもご出席いただいております。

次に、お手元の資料の確認をさせていただきます。

まず、事前に配付させていただいた資料として、にぎわい創出事業構想案に対するパブリックコメント結果概要、にぎわい創出事業構想、にぎわい創出懇談会報告書の3点。

次に本日配付させていただいた資料として、懇談会次第、懇談会委員名簿、市出席者名簿、資料1「南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出事業」についての4点。

以上7点でございますが、資料の不足等は、ございませんでしょうか。

3 座長の選出について

司会：

それでは、次第の「3座長の選出」に入らせていただきます。座長の選出までは、司会の方で進行を務めさせていただきます。本懇談会を進めるに当たり、懇談会の進行、議論のコーディネート等を行っていただく座長を置くこととさせていただきますと思います。

座長の決定につきましては、事務局から案を提案させていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

【異議なしの声】

司会：

ありがとうございます。それでは事務局からお願いします。

事務局：

事務局案としましては、今回の越谷サンシティ整備懇談会については、施設機能の具体的な検討が開催の趣旨であり、建築分野の面が強いことから、その分野に精通されております名簿番号1番の亜細亜大学都市創造学部教授の松岡様に座長をお願いしたいと考えております。

司会：

ただいま、事務局より亜細亜大学教授の松岡様に座長をお願いしたいと提案させていただきましたが、皆さまよろしいでしょうか。

【異議なしの声】

司会：

ありがとうございます。

松岡様におかれましては、ご承諾いただけますでしょうか。

松岡委員：

了解いたしました。

司会：

ありがとうございます。それでは、当懇談会の座長を松岡さまをお願いしたいと存じます。松岡座長におかれましては、前の席にご移動をお願いします。

それでは、ここで松岡座長からご挨拶をお願いいたします。

座長：

この話を頂いた際にセンシュアシティというキーワードが印象的でした。

都市・建築を考える時に人間の五感、本能による部分が原点にあり、それを形にすることが私自身の1つの目標であり、周辺の視点や社会も含めてどうデザインするかが課題でもあります。

コロナの中で、生活や働き方が変わっていくと思いますが、これをよい機会と捉えており、このタイミングで懇談会が動き出すのは象徴的だと思います。

昨年のにぎわい創出懇談会の報告書の内容は、キーワード等に未来志向があり、街を新しく創っていこうという意思を感じました。ハード・ソフト含めて、100年先を見据えた素晴らしいものができる、そこに我々が参画していたというものにしたいと考えています。懇談会ということで固くならず、様々な知見からの忌憚のない意見を頂きたいと思います。

私自身は、丹下健三事務所にいた際に、ナイジェリアからナポリまで回り大きな都市計画に携わってきました。都市計画においては様々な目線が大事で、皆様はそれぞれの立場の目線を持っていると思いますので、懇談会がいい方向にいくように様々な意見を出して頂きたいということをお願いして挨拶とさせていただきます。

司会：

ありがとうございました。それでは、ここからの進行につきましては、松岡座長をお願いしたいと存じます。

4 懇談会の公開について

座長：

それでは、しばらくの間進行を務めさせていただきます。
まず、次第の「4 懇談会の公開について」、事務局から説明をお願いします。

事務局：

懇談会の公開について、事務局からご説明させていただきます。

本懇談会については、有識者の方や関係団体等からご意見をいただき、新たな越谷サンシティの施設機能の具体的な検討をしていただくものでございます。委員の皆さまから忌憚のないご意見をいただくため、当日にマスコミへの公開は予定しておりませんが、本日の内容について、広く周知していくため、懇談会終了後に市議会議員及びマスコミ各社へ情報提供したいと思っております。

また、次回以降、広く市民へ周知することを目的に傍聴を受け公開したいと思っております。

なお、懇談会の議事録については越谷市のホームページにて公表してまいりたいと思っております。

座長：

ただいま事務局から説明がありましたが、本懇談会の内容を広く周知するため公開することとしてよろしいでしょうか。

【異議なしの声】

5 南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出事業について

座長：

次に、次第の「5 南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出事業について」事務局から説明をお願いします。

—事務局から南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出事業に関する昨年度までの事業概要及び今年度の取り組みについて説明—

座長：

ただ今の説明について、ご意見ご質問等がございましたらお願いします。

A委員：

2021年度の実施方針については、今年度決めたことをどのように展開するのでしょうか。

事務局：

手続きに関して補足させていただくと、PPP・PFIなどの民間の力を借りる手法を取り入れるのであれば、まず市が実施方針を策定し、整備方法なども含めて民間から何を提案して貰うかを示します。その後、パブリックコメントを経て、民間事業者の公募に入っていく流れが、一般的な手続きとなります。

座長：

私から、今の質問に関連して、本懇談会においてPFI等の整備方式も含め年度中に決定していくものでしょうか。

事務局：

本懇談会は様々なご意見を伺う場と認識しています。その中でマーケットサウンディング含めてどのような手法が考えられるか検討を進めたいと考えています。

B委員：

中期整備スケジュールについて、今の南越谷の現状を踏まえると、これだけの年数をかけている場合ではないと思います。

越谷駅前の再開発においても解体後に期間を開けすぎて、当初出店意向を示していたデパートも目を向けなくなったという経緯があり、南越谷で同じ失敗を繰り返さないことが我々の使命であると考えます。

これから利用する方にとってよかったと思われるものを残す必要があると思います。現在のコミュニティセンターの周りは中小企業も含めて経済状況は厳しくなっており、元気がなくなっています。そういう現状を踏まえ、作る側の立場からだけで検討を進めてはいけないと考えます。

座長：

ご意見として受け賜りたいと思います。

今のご意見は、これからの課題となってくると思います。

その他、ご意見ありますでしょうか。

C委員：

サンシティの建物そのものの年数が経っていますが、物理的な耐久性から建て替えが必要という判断なのでしょうか。リノベーションも考えられるのでしょうか。物理的な耐久性についてお教え下さい。

事務局：

建物に対しては耐震診断が行われており、耐震性能は確保されているという結果が出ています。そのため、建物としてすぐに危険という構造物ではないと認識しています。

座長：

その他、ご意見ありますでしょうか。

D委員：

建物の老朽化が進行しているということですが、コンクリートは60年から70年もつと聞いた記憶があり、40年で老朽化のため取り壊しが必要とはどういうことなのでしょう。

また、オープン当初と比べて施設の魅力が大幅に低下と言いますが、大幅とは何パーセント減少していることを指すのか、具体的に教えて下さい。

次に、南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出事業と今回の越谷サンシティ整備懇談会で検討する事業との関連性がよく分かりませんでした。にぎわい創出事業とサンシティ整備のどちらが主役なのかが分かりません。

最後に、コンセプトであるセンシュアシティについても、人を肌で感じると説明されていますが、それも捉え方は百人百様で曖昧な印象を受けます。もっと具体的な名称を立てないと市民アピールも出来ないのではないのでしょうか。

事務局：

コンクリートは耐震診断の中で中性化の確認が行われており、だいぶ中性化が進んでいるとの結果も出ています。すぐに建物が危険という状況ではありませんが、40年経った中で老朽化が進んでいる施設であると認識しております。

また、大幅な魅力の低下について具体的な数字は把握できおりませんが、昔からこのエリアを見ている方からは魅力やにぎわいが低下していると意見があり、そのように表記させて頂いています。

次に、にぎわい創出事業との関連性についてですが、にぎわい創出事業については駅周辺を含めた広いエリアでの事業となっており、今回のサンシティ整備懇談会についてはその中の一つの事業として捉えて頂ければと思います。周辺のアクセス道路や都市計画道路なども並行して検討が必要だと考えています。

最後に、市民へのアピールについては、今回の懇談会の内容を公開し、積極的に新聞報道等を通じてアピールしていきたいと考えています。

D委員：

具体的な数字もなく、魅力の大幅な低下というのは市民への説明として不十分ではないのでしょうか。また、事務局の説明は実際の施設利用者数の認識が不足していると思います。

次に、サンシティは耐震補強も行っており、耐震性には問題がないこと、また、長寿命化の対策としてリノベーションも可能であるという報告書もあったこと、これらも説明では省かれています。

そして、サンシティの建て替えと、にぎわい創出事業のどちらが主役なのか。建設費用とにぎわい創出事業費の割合等の具体的な説明を頂きたい。

センシュアシティという言葉に関しても、具体的な説明が必要ではないのでしょうか。

座長：

私は昨年度のにぎわい創出懇談会には参加していませんでしたが、建物を建て替えることは決定しているのでしょうか。

事務局：

サンシティの建て替えは決定していません。

座長：

私の経験では、病院を市役所に改築することでコストを10%程度下げることができた事例もあり、そのようなことも含めてこの懇談会で検討していきます。

サンシティを中心として相乗効果で街全体を賑やかにしていくというのが、前回のにぎわい創出懇談会での議論であったと思います。そのために今ある資源をどのように活用していくかが重要であると思います。

ファシリテーター：

今いただいたご意見に関しては、前回のにぎわい創出懇談会の報告書へのご意見だと思います。私は昨年度のにぎわい創出懇談会で副座長を務めていましたので、前回の経緯も含めて説明させていただきます。

昨年度の懇談会では、大幅な魅力の低下という根拠は3つほど挙げられておりました。1つは、懇談会に出席されている委員のご意見としてサンシティの建物の老朽化や大幅な魅力のという意見が出ていました。2つ目に、住民の方々に懇談会に出席いただき、例えば、かつてはサンシティで結婚式が行われにぎわっていましたがというような、個別に様々な意見もあり、当時と比べてにぎわいが大幅に低下したという声が多く聞かれました。3つ目として、懇談会外で周辺に住んでいる方や事業者にもヒアリングをしましたが、その中でも魅力が低下しているという意見がほとんどでした。これらについては議事録が残っていますので確認いただければと思います。

建て替えるのかどうかという点に関しては、リノベーションも含め様々な意見があると思いますので、今後の議論の中で意見を述べていただければと思います。

最後に、センシュアシティについても委員から様々な意見がありましたが、レイクタウンが人工的な都市であるので、それと比較する中で、南越谷の特徴として人肌を感じるという部分を出していく方がいいということで意見がまとまりました。これは、あくまで一つの懇談会の答申であり、パブリックコメントの中でも色々意見があるのは承知しておりますが、これは前回の結果として理解して頂ければと思います。

D委員：

建て替えありきなのか、そうではないのか、どちらなのでしょう。

ファシリテーター：

スケジュール感に沿って申し上げれば、南越谷地域全体をどうやって盛り上げるか、その上でサンシティのあり方を考えていきます。建て替えに関しては、前回の懇談会では建て替えの方向性で進む雰囲気があったことは否めませんが、決定事項ではありません。

座長：

その他、ご意見ありますでしょうか。

E委員：

本懇談会は広く市民の意見を出し合う会だと聞いて参加しています。

私は地元出身ではありませんのでサンシティの40年の歴史は計り知れませんが、ご縁があり何回かサンシティでのイベントを主催したことがあります。その中で地元の方々の話を聞く機会があり、子どもの頃の思い出話が出てくるなどとても良い施設だなと感じており、その施設の整備とあって歴史を次にどうつないでいくのかという点に関心があります。

スケジュールを見ると次回以降8月、10月と懇談会を行い11月には報告書をまとめるとあってタイトなスケジュールだと感じます。その中でどれだけ市民からの有効な意見を吸い上げられるのが課題であり、懇談会で活発な意見が出ればいいですがこの雰囲気だと難しいと感じます。そのため、本懇談会の場外で意見を聞く場を設けてみてはどうでしょうか。私はそのための活動団体を立ち上げており、懇談会の有識者も含め、各団体との意見交換をして、その内容をこの懇談会で提示するなどの形ができないでしょうか。

座長：

懇談会の開催回数が少ないこともありますので、結構だと思います。

6 他市の優良事例について

座長：

次に、次第の「6全国優良事例の紹介について」説明をいただき、引き続き、次第の「7意見交換」に繋げていこうと思います。

それでは、まず、「6全国優良事例の紹介について」事務局から説明をお願いします。

—懇話会などを通して中心市街地の活性化拠点をPFIにより整備した愛知県安城市の事例及び市民の活力を活用してにぎわいを作り出す試みをしている愛知県豊田市の事例を紹介—

7 意見交換

座長：

引き続き次第の「7意見交換」に移りたいと思います。

進行はファシリテーターの朝比奈さんをお願いしたいと思います。

ファシリテーター：

通常の議論の場では、円卓でより近い距離で議論を行いますが、本日はコロナの影響もあり、離れた距離で忌憚のないご意見を頂くこととなります。アメリカでは、死者数が第一世界大戦を超えたと言われ、貧富の差が広がり、バーチャルとリアルの二極化などが進んでいると聞いています。物事の決め方も、民主的に決める、強権的に決めるという2極化が進んでいますが、本懇談会は民主的にいろんな意見を出していただき、一つの形に集約していく必要があると思っています。

先ほども早く整備を進めるべきという意見から、様々な方を巻き込みもっと時間をかけて議論を進めるべきという意見もございました。今回は初回ということで、できれば大所高所的なところから、サンシティをどう考えていかなければならないのかという意見や個別の意見を出していただきたいと思います。

それでは、ご意見のある方いらっしゃいますでしょうか。

F委員：

お昼にサンシティを訪問しましたが、もうちょっと魅力のあるところにしたいという印象を持ちました。サンシティの整備にあたり3つの案があります。1つ目の案として、駅の乗降客が多い割にサンシティには人が少ないということで、駅からサンシティまでペDESTリアンデッキなど歩いてみたくなる環境を整備するといいいのではないのでしょうか。2つ目にランドスケープを良くするため、大きな公園を整備し、木を植えたり噴水を作ることなどが考えられます。3つ目にどういう機能を入れるかですが、商業施設や行政機能、マンション、ホテル、サンシティホールなどが考えられます。これらのテーマを3つのワーキンググループで考えるとよいと思います。

また、キーワードとしては、バリアフリーとCO2の少ない環境を考えて欲しいと思います。今後、障がい者や高齢者の増加が見込まれますので、段差や傾斜の少ないスロープ等の整備が必要であり、環境面では建物の緑化を進めるといったことが必要になり、このような検討もワーキンググループで進めて欲しいと思います。

ファシリテーター：

ありがとうございました。
その他、ご意見ありますでしょうか。

G委員：

私が移住してきた38年前は、この街は駅を中心とし、緑があり、にぎわいがあり、文化施設があつて輝いていました。都市機能の変化等により、当時より衰退するのは当然ですが、もう一度シンボリックな空間性を取り戻して欲しいと思います。

その上で、私は都市には物語が必要であると考えています。南越谷はどういうところですかという質問に市民や市外の方は答えられません。選ばれる街になるためには、核になる機能が必要です。第4次越谷市総合振興計画にはこのエリアは文化拠点にしましょうと書かれており、第5次越谷市総合振興計画でもその方向性が出てくると思います。しかしながら、文化は非常に幅が広く、地理、地形、歴史等により決まってくるものでありますので、越谷らしい文化とは何かを考えた上でシンボリックなものを作らないといけないと思います。このことから、文化拠点性を核にしっかりと議論をしていきたいと考えています。

また、この5月にいわゆる文化観光推進法が制定され、25のモデル地域が選定されます。文化という点でいえば、例えば、倉敷は大原美術館のような文化拠点施設が地域の中に溶け込んでおり、昔から産業と固有の文化を生み出した町であり、そこに市民の暮らしが営まれています。越谷市は倉敷市や先ほど紹介された豊田市や安城市とは異なりますので、越谷らしい文化核・文化拠点も含め文化とは何か考えなおす必要があります。

ファシリテーター：

ありがとうございました。
住民の観点と専門分野の観点の両方のご意見を頂きました。
その他、ご意見ありますでしょうか。

A委員：

にぎわいという観点では、市民が毎日使う憩いの場としてのにぎわい、経済拠点としてのにぎわい、様々なにぎわいがあると思いますが、どの程度のにぎわいを想定しているのでしょうか。個人的には南越谷・新越谷地区の様なポテンシャルの高い場所は、越谷市単体ではなく埼玉県東部圏域として捉え、日々のにぎわいも大切であるが、あの場所でしかできない大きな経済活動ができる場所ではないかと考えています。

ウィズ・コロナ、アフター・コロナの時代の先駆けとなるようなにぎわいの創出について議論できれば素晴らしいと思います。また、G委員がおっしゃった文化という視点に経済の視点も含めてサンシティの整備を考えていければ、素晴らしい施設になるのではないかと考えています。

ファシリテーター：

ありがとうございました。
コロナ時代どうなるかを見通すことは難しいですが、その先駆けとなるべきとのご意見を頂きました。
その他、ご意見ありますでしょうか。

H委員：

前回のにぎわい創出懇談会の報告書に対するパブリックコメントの時も公募委員募集の時も同じ意見を出しましたが、イベントホールでスポーツができるといいと思います。具体的には、中心に舞台があり周りから見られるアリーナという形式がいいと思います。

越谷には重要な資源としてプロバスケットチームがあるので、この資源を有効活用して子どもたちに夢を与えたいと思います。また、バスケットでの実績を作ると他の室内スポーツを呼びこむこともできます。

そして、今後、少子高齢化が進むことで、健康がますます大切になりますので、地元でプロスポーツをやっているスポーツや健康にも関心が高まると考えます。

プロバスケットチームの活用と市民の健康意識の向上の観点から、アリーナを提案いたします。

さらに、市民からの意見を集めるという観点で、2月にパブリックコメントを実施する予定となっていますが、5回の懇談会でその都度中間のパブリックコメントを実施できればいいと思います。例えば、越谷市のホームページにそのような仕組みを設けることで市民の意見を多く収集できると思います。

ファシリテーター：

ありがとうございました。

スポーツによる街おこしと健康意識の増進、そして市民意見の集約としての市ホームページの活用と様々な意見を頂きました。

その他、ご意見ありますでしょうか。

C委員：

南越谷について考えるにあたり、越谷市全体の今後の戦略をどう考えているかを伺いたい。議論にもあった様にレイクタウンなどの南越谷周辺地域との関係をどう考えるかという視点が大事です。極端な話として、南越谷が栄えたとしても他の地域にマイナスを与えてはいけないので、越谷市として市全体をどう考えているのかが重要です。

また、現状で何が問題なのか改めて整理する必要があります。昨年度の懇談会でも分析されておりますが、コロナの影響もあり、置かれている環境は変化しています。その中で現状や今後10年先20年先を考えたときに何が問題なのかを考えることが大切だと思います。

例えば、にぎわい創出という観点では、どのようににぎわいが足りないのか、なぜにぎわいが大きくないのかを考える必要があります。

私は元国家公務員ですが、行政はできる計画、手段を先に考え、できそうな計画、できそうな手段を探します。何が問題で、どのような制約条件で、何が優先なのか、政策手段の前に問題の検討が必要であり、条件や状況はますます厳しくなるので知恵を絞って考える必要があります。問題の共通認識がないと議論が発展していかないので、まず問題を認識し、そこから知恵を出していくことが重要です。

ファシリテーター：

ありがとうございました。

越谷市の全体戦略の中で南越谷をどう捉えるかという視点が重要になってくると思いますので次回以降も議論されるかと思っています。

また、問題点について、昨年度の懇談会でも、川越、所沢、北朝霞、柏等のベンチマーク駅と比較すると乗降客数が消費につながっていないという吸引率に関する問題も出ていましたが、他にも様々な問題があると思いますので忌憚のないご意見を頂ければと思います。

その他、ご意見ありますでしょうか。

I 委員：

私は、吹奏楽部に所属しており、サンシティの大ホールをよく利用しています。現在、埼玉県には吹奏楽のコンクールができる施設は、所沢市のミューズとさいたま市文化センターの2つしかありませんので、吹奏楽のコンクールを呼べるホールが越谷市にあるといいと思います。そのためにはリハーサル室の整備、ホールの客席数、ピアノ等の楽器の配置、ホールの入りやすさなどの見直しが必要であると考えています。

コンクールは小学生から一般の部までであることからたくさんのイベントが行われること、また、大きなホールであれば有名なアーティストを呼ぶことが可能となることから、多くの集客が見込めるため、大規模なホールを提案します。

ファシリテーター：

ありがとうございました。

音楽の活用というミクロの視点の意見を頂きました。

その他、ご意見ありますでしょうか。

E 委員：

資料P19の整備方針に必要な機能や規模が入っていますが、誰がどのように使うのか等、具体的な対象とする人がストーリーとともに見えていないと決められないと思うので、自由に意見交換できる雰囲気作りをしていけたら良いと思います。

また、豊田市の事例が挙げられていましたが、市民をどのように巻き込むかが大きな課題であり、市民力を集める機能として市民活動団体に声をかけるなど、行政と市民の協働で実施できたらよいと思います。このような事例や手法はいくらでも出せますが、誰がどうやるのか、実行ベースで話す必要があり、何か一つでも結果を残したいと思っています。

ファシリテーター：

ありがとうございました。

先程の事務局資料にもホール検討について本懇談会とは別に分科会が設置されておりました。また、市も一体となって市民の意見を聞く場もあります。さらに、次回懇談会から公開となりますので、どんどん市民を巻き込んでいきたいと思っています。同時にスピードも考慮しバランスを考え、進めていければと思います。

その他、ご意見ありますでしょうか。

J 委員：

他の優良事例として、安城市では広場で球技、豊田市ではスケートボードの話が出ていましたが、サンシティは色々な人が利用するので、その中でスケボーをやって大丈夫なのか疑問に感じます。事例として挙げておりますが、利用者の視点が散逸しているのではないのでしょうか。

また、私が高校生の時に、市長とのふれあいミーティングに参加しましたが、中高生もしっかりした意見を持っているので、直接中高生に会って意見を聞いた方がよいと思います。

ファシリテーター：

事例の趣旨は、使い手を考えていくということだと理解しております。

K委員は、豊田市の事例を主体的に進めてきた1人でもありますので、補足お願いします。

K委員：

豊田市でもそうでしたが、街で何かをやろうとすると、最初に議論となるのは、街は誰のものかということです。街づくりの会議では、誰かに頼むことを探してばかりになりますがそうすると街づくりは一向に進まないですし、それでできる街は面白くないと思います。それよりも、やりたいことを自分事化できる人達をどれだけ仲間に入れられるかが大事だと思います。

豊田市の事例では多くの使われていない広場を「遊べる豊田プロジェクト」として開放したところ、様々な人たちのやりたいが集まりました。そのやりたいを実現するために、例えば電源をどう回すか、どういう条例の緩和措置が必要かなどを話し合い、みんながやりたいことを一つ一つ実現していきました。このように将来街の担い手になる街に対して自分事化できる人たちを集め、その人たちをエンジンとして都心を塗り替えていこうというのが豊田市の事例でした。例えばスケートボードユーザーは、「危険」「うるさい」などの理由で街では嫌われていましたが、彼らに権限を与え、自分たちが周辺の人からクレームを受けないために自分たちでルールを決めさせました。このような取り組みを積み上げることにより街の魅力が増えていくと思います。

本懇談会においても、決めるのはハードのコンテンツの部分だと思いますが、そこから派生してやりたいことをどこまでつないでいけるかが大切だと思います。本懇談会を通して、自分事化できる人たちを見つける方法を話し合うことと20年後30年後のプレイヤーを見極めてその人たちを応援できる体制を作ることが大切だと思います。

ファシリテーター：

豊田市の事例はハードがあるなかでそれをどう活用するかということが中心だったと思います。対して南越谷については、使い手の意見を聞きながらハードも整備していくということになると思います。

その他、ご意見ありませんでしょうか。

L委員：

昔はサンシティのエリアには何もありませんでしたが、今は雑然とした地域となっています。現在のサンシティは、駅周辺から見えなくなりランドマークとしての意味合いが低下していると思います。極端な例ではありますが、芝生だけでその他は何もなくなったらどうなるのかということも考えています。つまり、街の中に緑があって、そこに人が集まれる場所があってもいいのではないかと思います。

池袋の公園は、様々な人が集まり、くつろいだり、スポーツをしたり、災害の避難所として活用したり、様々な位置づけができる場所として開発したのは良い事例だと感じています。

現在、越谷は、緑があるようで少ないため、サンシティが憩いの場となることも必要ではないかと思っています。様々な機能を持たせるにはスペースが限られているので、南越谷全体をみて、また40年後に建て替えるようなものになってはいけないと考えています。

ファシリテーター：

ありがとうございました。

広場をどのように考えるかは重要なポイントとなると思います。

その他、ご意見ありますでしょうか。

M委員：

鉄道のクロスライン、越谷の人口増加、隣駅の大型ショッピングセンターという南越谷を取り巻く前提条件の中で、アリーナは個人的にはいいアイデアだと思います。

これからわが街の子どもたちを育成するうえで街の魅力を伝えるいい機会だと思います。

越谷サンシティのコンセプトは凱旋門とシャンゼリゼ通りというイメージです。ランドマーク的なものの中で人が賑わう、寄ってみたい、そういう施設があるべきです。

また、南越谷の開発ですが、A委員の言うとおりの、東南地区のマクロ的な視点が大切です。

最後に、商店会の中でも勉強する委員会を設けたので、本日の内容を会員に提供し、ヒアリングを実施し、事前セッションを行ったうえで次回議論できればと考えています。

ファシリテーター：

ありがとうございました。

全体の会議はなかなか開催できないので、皆様の元にも集まった意見を積極的に取り入れ、民主的に進めていければと思います。

その他、ご意見ありますでしょうか。

N委員：

越谷サンシティ整備基本計画を1年で決めていくということなので、3回目、4回目、5回目の懇談会までに、どこまで決めなければいけないかを次回提示して欲しいと思います。

また、青年会議所では、まちづくり・人づくり関連の活動をしています。埼玉県東部地区では県内交流をどう活性化させていくかが課題であります。市としても何が越谷市の魅力であるかを伝えきれていない現状がありますので、市内交流が生まれるような、また市外からも人を呼び込める施設を作る必要があると思います。

本日は出ていたホール、アリーナなども収益性を確保できるものができれば10年後 50年後も素晴らしい越谷であると思いますので、活発な議論をしていきたいと思っています。

ファシリテーター：

ありがとうございました。

本日の懇談会で様々な意見をいただきましたが、できるだけ多くの人の意見を集約するとともに、スピード感を持ちながら進めていきたいと思っていますので、引き続き次回も忌憚のないご意見を頂ければと思います。

議論は以上といたしまして、進行を座長にお返ししたいと思います。

座長：

ありがとうございます。今日の意見を参考に、事務局は施設機能の検討を進め、次回はもう少し進んだ資料が出てくるものと思います。

都市や街は固定されているとつまらないものであり、変容していくことを前提に、時代により求められるものが変わるので、そのことに応えられる場所空間が必要であると思いますので、具体的にこれから皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

司会：

松岡座長、ありがとうございました。次に、次第の「8 その他」として、事務局からお願いいたします。

8 その他

事務局：

事務局から、次回の懇談会の開催予定についてご連絡させていただきます。次回第2回懇談会につきましては、8月下旬の開催を予定しております。詳細につきましては、座長とファシリテーターと調整させていただき、後日、開催通知を送らせていただきます。

9 閉会

司会：

他に皆さまから何かご意見等ございますでしょうか。特に無いようでしたら、本日の会議は以上となります。本日は長時間にわたり、誠にありがとうございました。